



報道関係者 各位

平成 31 年 4 月 26 日

【照会先】 栃木労働局 労働基準部 健康安全課  
課 長 井口 恵貴  
安全専門官 山田 和昭  
電 話 028-634-9117

## 平成 30 年の死傷者数が過去 10 年間で最多！

### － 栃木県内の休業 4 日以上の労働災害発生状況（確定値）－

#### 1 栃木県内の平成 30 年の労働災害発生状況（別添 1 参照）

休業 4 日以上の死傷者数は 1,930 人、そのうち 14 人の方が亡くなられています。

##### 労働災害の概要

- ・ 死傷者数は H29 年の 1,846 人と比較して 84 人の増加 増加率は 4.6%（過去 10 年間で最多）
- ・ 死亡者数は H29 年の 16 人から 2 人減少  
（過去 10 年間で最少 最多の H22 年に比較して 12 人減少）
- ・ 業種別の最多は第三次産業の 861 人（全体の 44.6%）、続いて製造業 551 人 建設業 193 人
- ・ 事故の型別の最多は「転倒災害」477 人（全体の 24.7%）、続いて「墜落・転落」272 人（全体の 14.1%）、「動作の反動・無理な動作」244 人（全体の 12.6%）
- ・ 被災者の年齢別では 50 歳以上が 942 人と全体の 49% を占めている。

#### 2 今後の対策のポイント（別添 2 参照）

H30 年の労働災害の発生状況を踏まえ、次の取組を重点的に推進する。

- ・ 転倒災害の減少を図るために「STOP！転倒災害プロジェクト」（別添 2）の取組を安全週間説明会などのあらゆる機会を捉え業種横断的に促進する
- ・ 高齢労働者（50 歳以上）の労働災害を防止するために「エイジアクション 100」（高齢労働者の安全と健康確保のためのチェックリスト）の取組による職場の課題の洗い出しと改善に向けた取組を促進する。

なお、6 月の全国安全週間準備期間、7/1～7/7 の全国安全週間に向け、労働災害の動向についてさらに分析を進め、効果的な再発防止策を実施することとしています。

#### 3 添付資料

別添 1 労働災害発生状況（平成 30 年確定値）

別添 2 「STOP！転倒災害プロジェクト」

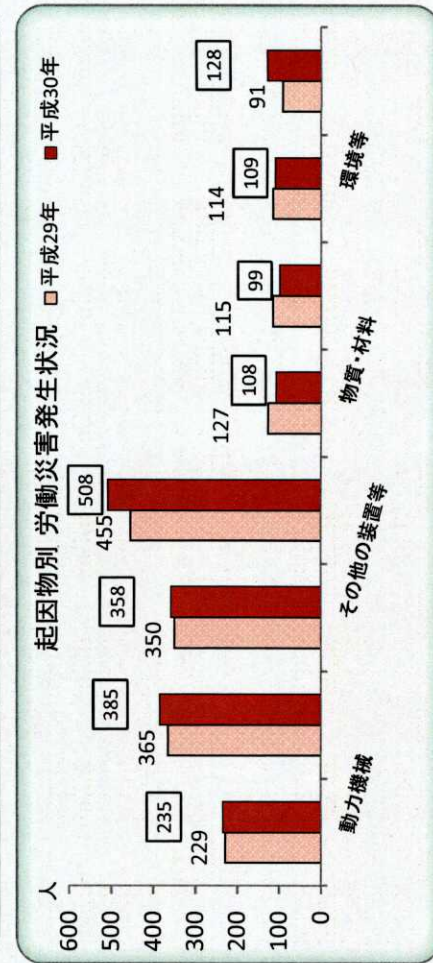
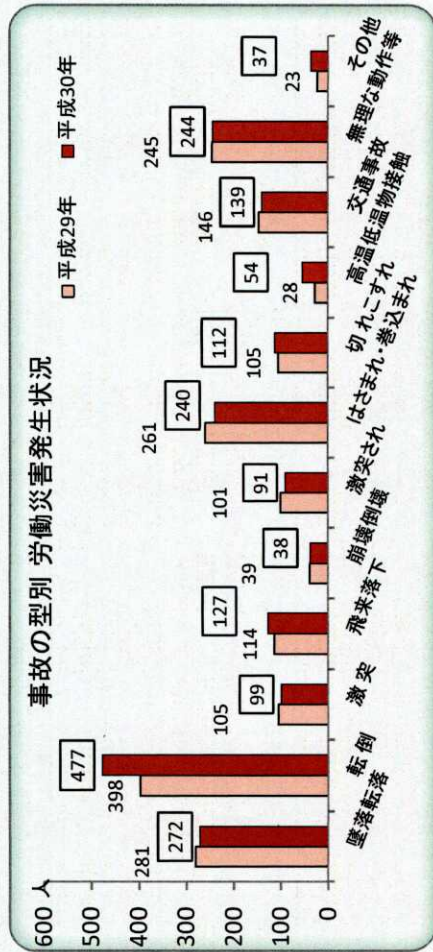
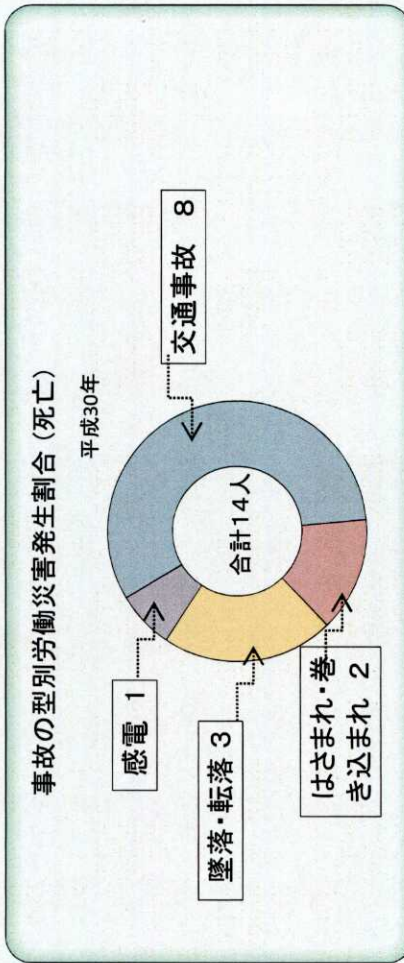
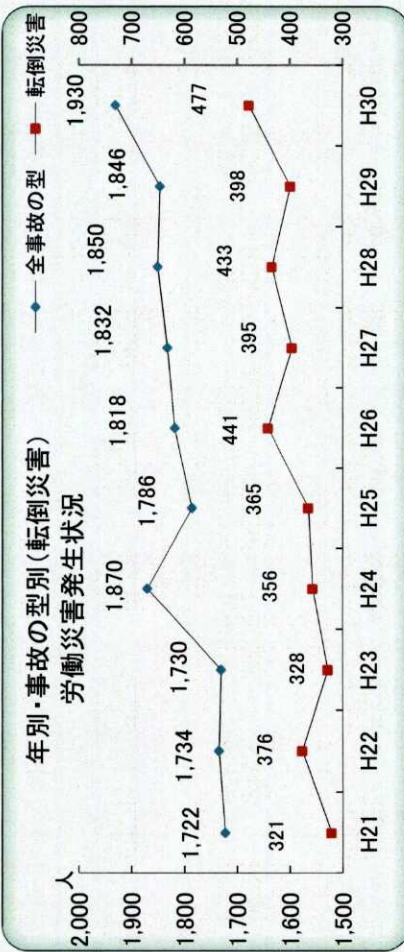
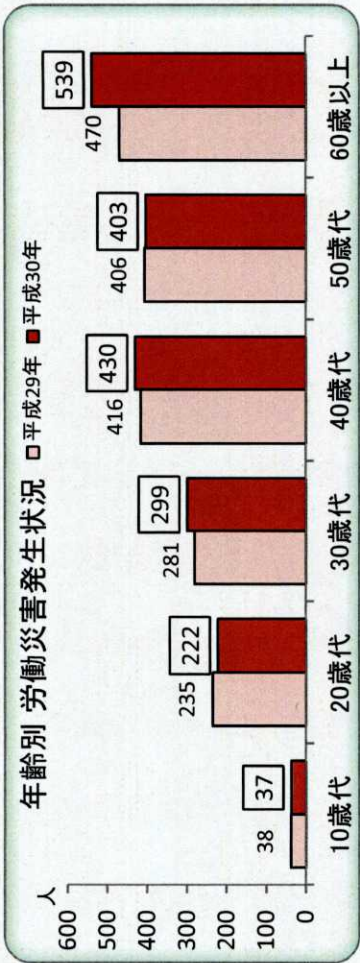
# 労働災害発生状況（平成30年確定値）

別添1

栃木労働局 健康安全課

区分	平成29年		平成30年		増減数	増減率(%)
	死傷者数	死亡者数	死傷者数	死亡者数		
全産業	1,846	16	1,930	14	+ 84	+ 4.6
製造業	524	3	551	2	+ 27	+ 5.2
建設業	211	3	193	1	- 18	- 8.5
道路運送 陸上貨物業	207	5	240	3	+ 33	+ 15.9
林業	13		20		+ 7	+ 53.8
第三次産業	816	4	861	7	+ 45	+ 5.5

注：主要業種別労働災害発生状況（林業4日以上の死傷病報告書による統計で、死亡者数は内数である。）





# STOP! 転倒災害

## プロジェクト

# STOP!転倒災害

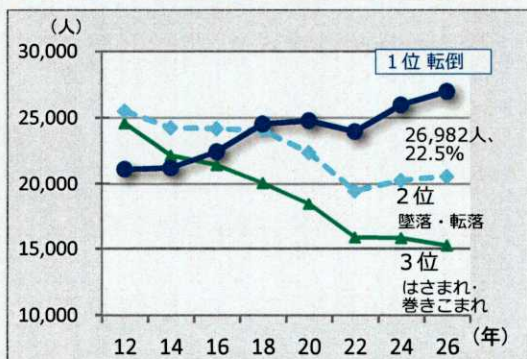
厚生労働省と労働災害防止団体では、**転倒災害**を撲滅するため「**STOP! 転倒災害プロジェクト**」を推進しています。

事業者の皆さまは、職場の**転倒災害防止対策**を進めていただくとともに、プロジェクトの重点取組期間（2月、6月）には、チェックリスト（最終ページ）を活用した**総点検**を行い、安全委員会などでの調査審議などを経て、**職場環境の改善**を図ってください。

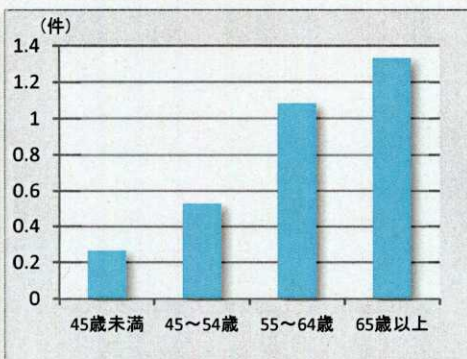
転倒災害は今、最も多い労働災害で、しかもその割合は年々増えています。また、長期の休業につながることも多く、深刻な問題になっています。

高齢者ほど転倒災害のリスクが増加し、55歳以上では1,000人に1人以上が被災しています。

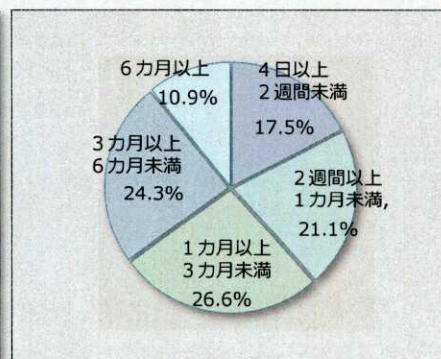
転倒災害による休業期間は、約6割が1カ月以上となっています。



平成26年 厚生労働省 労働者死傷病報告 「事故の型別死傷者数の推移」



平成26年 労働者死傷病報告と総務省労働力調査 「年齢別転倒災害の発生率」 (労働者千人当たりの転倒災害発生件数)



平成26年 労働者死傷病報告 「転倒災害による休業期間の割合」




## 転倒災害の種類と主な原因

▶転倒災害は、大きく3種類に分けられます。皆さまの職場にも、似たような危険はありませんか？

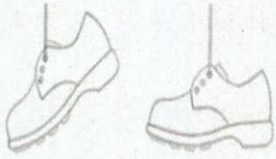
滑り	つまずき	踏み外し
		
<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床が滑りやすい素材である。</li> <li>床に水や油が飛散している。</li> <li>ビニールや紙など、滑りやすい異物が床に落ちている。</li> </ul>	<p>&lt;主な原因&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>床の凹凸や段差がある。</li> <li>床に荷物や商品などが放置されている。</li> </ul>	<p>&lt;主な原因&gt;</p> <p>大きな荷物を抱えるなど、足元が見えない状態で作業している。</p>

# 転倒災害防止対策のポイント

▶転倒災害を防止することで、安心して作業が行えるようになり、作業効率も上がります。できるところから少しずつ取り組んでいきましょう。

4S (整理・整頓・清掃・清潔)	転倒しにくい作業方法 「あせらない 急ぐときほど 落ち着いて」	その他の対策
<ul style="list-style-type: none"> <li>歩行場所に物を放置しない</li> <li>床面の汚れ（水、油、粉など）を取り除く</li> <li>床面の凹凸、段差などの解消</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>時間に余裕を持って行動</li> <li>滑りやすい場所では小さな歩幅で歩行</li> <li>足元が見えにくい状態で作業しない</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>作業に適した靴の着用</li> <li>職場の危険マップの作成による危険情報の共有</li> <li>転倒危険場所にステッカーなどで注意喚起</li> </ul> 

## <転倒しないための靴選びのポイント>

<b>サイズ</b>	小さすぎても大きすぎても踏ん張りがきかずバランスを崩しやすくなります。	
<b>屈曲性</b>	屈曲性が悪いとすり足になりやすく、つまづきの原因になります。	
<b>重量</b>	重すぎると足が上がりにくくなり、つまづきの原因になります。	
<b>重量バランス（前後）</b>	つま先方向に重量が偏っていると、歩行時につま先が下がり、つまづきの原因になります。	
<b>つま先部の高さ</b>	つま先の高さが低いと、ちょっとした段差にも、つまづきやすくなります。	
<b>靴底と床の耐滑性のバランス</b>	作業場所や内容に合った耐滑性であることが重要です。例えば、滑りにくい床に滑りにくい靴底では摩擦が強くなりすぎてつまづきの原因になります。	

## 冬季は転倒災害が多発

▶積雪・凍結などによって転倒の危険性が高まる冬季は、以下の対策が重要です。

### ◇天気予報に気を配る

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し、転倒しにくい靴の着用を指示するなど、早めの対策を実施しましょう。

### ◇駐車場の除雪・融雪は万全に。出入口には転倒防止の対策を！

駐車場内、駐車場から職場までの通路を確保するため、除雪や融雪剤の散布を行いましょう。また、出入口には転倒防止用のマットやヒートマットなどを敷き、夜間は照明設備を設けて明るさ（照度）を確保しましょう。



### ◇職場の危険マップの作成、適切な履物、歩行方法などの教育を行う

職場内の労働者が転倒の危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょう。また、作業に適した履物、雪道や凍った路面上での歩き方を教育しましょう。

ヒートマットの設置例>

詳しくは、厚生労働省ホームページをご覧ください！

「STOP！転倒災害プロジェクト」

STOP！転倒

検索

# あなたの職場は大丈夫？転倒の危険をチェックしてみましよう

## 転倒災害防止のためのチェックシート

チェック項目		<input checked="" type="checkbox"/>
1	通路、階段、出口に物を放置していませんか	<input type="checkbox"/>
2	床の水たまりや氷、油、粉類などは放置せず、その都度取り除いていますか	<input type="checkbox"/>
3	安全に移動できるように十分な明るさ（照度）が確保されていますか	<input type="checkbox"/>
4	転倒を予防するための教育を行っていますか	<input type="checkbox"/>
5	作業靴は、作業現場に合った耐滑性があり、かつちょうど良いサイズのものを選んでいませんか	<input type="checkbox"/>
6	ヒヤリハット情報を活用して、転倒しやすい場所の危険マップを作成し、周知していますか	<input type="checkbox"/>
7	段差のある箇所や滑りやすい場所などに注意を促す標識をつけていませんか	<input type="checkbox"/>
8	ポケットに手を入れたまま歩くことを禁止していますか	<input type="checkbox"/>
9	ストレッチ体操や転倒予防のための運動を取り入れていますか	<input type="checkbox"/>

チェックの結果はいかがでしたか？ 問題のあったポイントが改善されれば、きっと作業効率も上がって働きやすい職場になります。

どのように改善するか「安全委員会」などで、全員でアイデアを出し合いましょう！